

平成 24 年度聖カタリナ大学 自己改善への取り組み  
—聖カタリナ大学教育・研究組織の業務・事業報告—

この度、本学では、大学としての社会的使命や説明責任を果たすため、学内 18 の組織が取り組んでいる教育や研究に関する業務や事業について、その内容や取り組み状況、さらには評価や改善の方向性等の概要を、地域の皆様に幅広く公表することにしました。

この報告には、各部署が年度毎に一定の目標を立て、結果として十分に達成できなかつた内容も含まれていますが、それらを踏まえながら次の改善へとつなげ、現代の社会の要請に応える大学づくりに向けて努力を重ねる所存であります。

つきましては、保護者、学生、同窓生、高校、行政や企業などの社会的組織や団体、そして一般市民の皆様方にも、こうした本学における学内の取り組みも知っていただき、今まで以上のご理解とご協力を賜りたく存じます。

聖カタリナ大学 学長 ホビノ・サンミゲル  
学部長 坂原 明

## 大学評価委員会

本委員会は、学部年間計画（学科や委員会など18の部署が作成する計画）の管理等を通して、本学の教育研究に関する恒常的な点検・評価及び改善に向けた支援を行なっている。本年度は、①各部署が作成する計画における目的・目標の明確化と達成度による評価、②各部署における自己改善への取り組みの公表、という達成目標を掲げての業務であったが、その結果は、前者①の場合の達成度は約6割の達成率（各部署の自己評価）、後者②の自己改善への取り組みについては今回初めてホームページでの公表を行なうこともできた。次年度は、明確な目的・目標の達成度による学部年間計画の実施率の更なる向上と平成26年度の大学基準協会による審査に向けた準備を行なう予定にしている。

## 人間文化研究所

本研究所は、フォーラムと公開セミナーの実施、研究紀要の発行を行なっている。フォーラムでは、目標であった①当該フォーラムで未発表の先生方の発表、②サロン風の親しみのもてる雰囲気づくりについては達成したが、本学教員等の参加者数は目標に達しなかった。他方、公開セミナーは、神戸大ボランティアセンターの先生を含む3人の講師の他、フロア参加として本学の学生や聖カタリナ高校の生徒さんの協力もえることができ、従来の講演会にはない魅力的なセミナーとなった。ただ、フォーラムやセミナーにおいては、一般市民などの研究所関係者以外の方々の参加は少なく、地域の教育・文化の向上を目指す研究所としては今後の課題である。研究所紀要是今年度も多くの投稿があり本学における研究の活性化に一役かっているところである。

## キリスト教研研究所

本研究所は、フォーラム、研究紀要と所報の発行を通して、建学の精神を基礎とし体現する教育活動・研究活動の活性化を行なっている。フォーラムは達成目標を三点掲げ、①メインテーマ「キリスト教と信仰」の企画で5回開催、②所員と県内の客員所員全員が発表、③一般的の参加者数15名以上については、一般参加者が固定し教職員が皆無であった一方、所員の取り組みにより学生参加者を多数得た。ただ、学生にとっては難解だったとの印象で、発表・聴講の双方にとり魅力的なテーマを立て、学生・教職員・一般からの参加を促す持続的展開が課題である。紀要是、後期発行で論文等の数5編以上の目標を達成、所報も学外からの記事も得つつ充実し、研究所の存在を広くアピールし活動を伝える目的を果たしている。また、特に大学の宗教行事等で所員による宗教主事室と宗教研究部との連携した活動、学生司牧が行われていたことが評価される。

## 社会福祉学科

本学科は、社会福祉専攻及び介護福祉専攻学生の教育の充実と円滑な学科運営のため、本年度は①福祉教育の一層の充実、②地域との連携と情報発信の目標を掲げて取り組んだ。その結果、前者①については、平成26年度新入生から、これまでの「コース制」を廃止して、学生の将来設計に適合した科目を選択・履修しやすいよう「福祉実践系」「精神保健福祉系」「福祉マネジメント系」の3つの系を設定することとした。

②については、地方自治体や団体の委員及び各種研修会の講師を担当し、またワークショップや市民向け講座等を実施した。一方、これら教員の活動や経験を学生教育につなげる具体策が十分とは言えず、今後アンケート調査を実施して検討する予定である。

#### 健康福祉マネジメント学科

昨年度は、学生一人ひとりの個性を重視した、「質の高い教育」の実現をコンセプトに学科運営を行った。具体的には、学生と十分なコミュニケーションを図り、語らいの中で学生の自己実現を一緒に考える教育の実現を目指した。学科は、健康スポーツマネジメント専攻と福祉マネジメント専攻という性格が異なる構成であるため、学科教員の専門性に合わせて、授業の相談、資格取得、就職相談など学生の教育支援にあたった。

しかし、学科の性格上、異なる分野の教員の集合体であるため、専攻が異なるとお互いの理解が希薄になるという問題が発生した。また、学科の改組が優先されたため、現状の教育のあり方に対する意見交換が不十分であった。

今年度は、新学科設置のための準備を行うとともに、既存学科に在籍する学生の支援が不十分にならないように細心の注意を払って教育を行うつもりである。また、福祉経営学科の系譜に位置づけれる福祉マネジメントの教育的な意義を喪失しないように、マネジメントに関する教育を所属教員とともにしっかりと考えて行く予定である。

#### 人間社会学科

人間社会学科は、学科基本概念と理念から教育指導、キャリア開発、就職支援の深化をすすめている。①学生募集に関しては、社会学と心理学からなる特色ある学科であり、学びの特徴を広めるために体験型のプログラムをさらに強化することなどで改善を行っている。②教育課程では、現代社会と人間の認識を深め、社会的事象と人間の心理を洞察する方法を習得し、コミュニケーション能力と課題発見・問題解決能力の深化のために教員相互で情報の共有をはかり、さらなる改善を進めている。社会調査実習やインターンシップの学習課程、また認定心理士や産業カウンセラー、また教職課程（教員免許）などの資格にかかる学習課程の指導を徹底し、教育の深化をすすめている。③第一期生を送り出す年度を控え、インターンシップなどに関連させて就職指導の徹底に取り組んでいるところである。

#### 就職委員会

平成24年度は、4年生の就職率が過去最高の96.3%を記録し、職業スキルアップ講座や学年別就職ガイダンスなど施策全般の効果が表れたものと考えられる。特に、就活準備塾の実施により、就職活動への意識が高まった学生がリーダーシップを發揮し、就職課に他の学生を連れて一緒に就職課を訪れるという「学生同士の協力関係」が形成された意義は大きい。しかし就職率向上の一方で、就職が決まった学生の内定辞退や早期退職が目立つようになり、卒業生への就職支援の充実が課題として浮かび上がった。

平成25年度は、各種講座やガイダンスを継続して実施する。更に、高い就職率の維持に向けて、3年生に対して調査を実施して就職希望の動向を把握し、どのような業種をターゲットに就職活動を進めていくかを検討していく予定である。

ゲットとして就職先を開拓するのかを考える。そして、新たに浮かび上がった卒業生への就職支援の対策として、卒業生及び就職先に対する調査を実施し、卒業生の就労状況及び就職先の望む人材像を把握することで支援の方向性を探る。

## 広報委員会

広報委員会は、『地域に信頼される大学』をコンセプトに、入試に特化しない大学全体の教育情報の発信を行っている。また、情報発信にかかるリスク対応も業務としている。昨年度から、大学情報をより分かりやすく発信するという視点からDVDの作成に着手し、平成25年7月上旬完成を目指している。また、文部科学省により義務化された教育情報をより分かりやすいものにした。あわせて、情報発信に伴うリスクを回避するため、発信する前に大学・短大の教職員一丸となって、情報を回覧しチェックする体制を構築した。

しかし、DVDの作成については、入試広報と総務課広報室の棲み分けが不十分で、作成のコンセプトにいわゆるブレが生じた。また、学内の要望を早急に実現するために着手したため、学内全体の協力体制が不十分であった。情報リスクのチェック体制については、徐々に学内で理解が深まっているが、依然として、ブログや情報発信の窓口の一元化などについて問題が散見される状況である。

今年度は、大学全体の広報の意義を委員会全体で確認し、入試広報との違いについて委員が共通の認識をもつようにならう。また、より一層、情報発信の意義とリスクについての啓発を予定である。

## FD委員会

平成24年度のFD委員会は、①授業の改善と教育力向上、②研究活動の活性化の事業目的を掲げ、新任教員の研修や公開授業（授業参観）、学生による授業評価、「聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究叢書」の出版、S P O D（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）への研修参加、FD学内研修会、人間文化研究所との共同企画としての研修等、教員の教育力向上と研究活動を支援してきた。その結果は、新任教員研修や研究叢書の進捗状況、それに教員の学内研修支援に関してはほぼ目標を達成したが、授業参観による自らの授業改善とS P O D研修への参加は低調であった。次年度はこの低調だった業務・事業と授業評価結果の改善方策等を再検討し、達成率向上に向けて取り組んでいく。

## 学生相談室

本学における学生のメンタルケアを図り、学生の学生生活への適応への支援の一つとして、学生からの心理的相談に対応している。相談室業務の性質上、相談件数が多いことが望ましいと単純に言えるものではない。しかし、不適応的な学生が抵抗を感じずに利用できるような相談室の在り様を模索する必要がある。そこで、学生の潜在的なニーズを把握するために、学生相談室を紹介する機会に行うアンケートの項目や相談室を周知する工夫を継続していく。また、教職員へのコラボレーションやコンサルテーションの件数は徐々に増加傾向にあり、評価できる。この点については、現状を維持するとともに、教職員への声掛けを意識的に行うなどの工夫をする。

## ボランティアセンター運営委員会

本センターは、学生ボランティアセンターへの助言、指導を行うことを通じ、ボランティア活動に関する教育、普及を行い、諸団体との連携を図っている。学生ボランティアセンター長をはじめ所属の学生たちが主体的な活動を行い、本センターの使命が果たせていると思われる。しかし、学生ボランティアセンターが次代に移行する上で、組織を率いる人材がいるか不安を抱えている。その点について、本センターが助言、指導することで、滞りなくセンター活動を推進できるよう働きかける必要がある。そのためには、本センター委員の役割分担を見直し、担当毎に学生メンバーとの関わりを深めるよう努力していかなくてはならないと考えている。

## 学生生活委員会

本委員会は、定期的な委員会活動を通して奨学金の面接や寮生活に関することなど学生生活全般に対しての支援を行っている。本年度は、初めて全学年に対しての学生満足度調査を実施した。回答率がそれほど高くなかったことから、来年度は履修ガイダンスの際に実施することで回答率の向上を目指す。現在、調査結果をもとに各部署で学生支援に関する業務改善に取り組んでいるところである。また、今年度は従来の「クラブ・同好会に関する細則」から「クラブに関する内規」として、規定の全面改正を行った。クラブの種類を3種類から2種類に変更し、部と同好会の違いを明確にしたことで、今後、部への昇格希望が増え、クラブ活動が活性化することが予想される。

## 国際交流委員会

本年度は国際提携校、およびICUSTA 加盟校へのパンフレットの送付を行った。その成果として、来年度よりスペインのアビラ・サンタ・テレサ・デ・ヘスス・カトリック大学と新たに国際交流協定を締結する予定となっている。また、台湾の静修女子高級中学校から50名が本学主催の授業体験、文化研修に参加した。その結果、2名の学生が来年度より3年次編入生となることが決定し、一定の成果を上げている。

毎年開催されている韓国研修、スペイン研修では、本年度もそれぞれ4名の学生が参加し、好評を博している。一方で、シアトルの研修プログラムは、参加希望がなかったため実施されなかった。学生がより参加しやすく、魅力ある研修プログラムを開発し、来年度より新たにフィリピン研修プログラムを策定する。

## 図書館委員会

本委員会は、前年度からの取組「自ら学ぶ力」育成プログラムを推進し、情報リテラシー教育を通じて学生の自主的な学習力を育んできた。このプログラムはⅠ入門編、Ⅱ基礎編、Ⅲ応用編の3部構成としているが、前年度、Ⅰは基礎演習時間に充当して一年生全員が受講したが、Ⅱ、Ⅲについては受講を希望者としていたため目標値に到達しなかった。そのことを踏まえ、本年度はゼミでの利用を周知したところ、各部とも目標値を大きく超えることができた。これにより、前年度目標値を達成しなかったグループ学習室の利用状況も、個人による利用だけで目標値を大きくクリアー（185%）した。次年度は「自ら学ぶ力」育成プログラムを引き続き推進するとともに、多くの学生が個人やグループで自主的な学習ができるラーニングコモンズの設置に向けて取組む予定である。

## 教職課程委員会

本委員会の主目的は、教職課程および教育実習関連業務を滞りなく運営し、小規模校のよさを生かし、丁寧な指導によって真に教職を目指す学生の利益に資することである。平成24年度の教職課程委員会の最大の取り組みは、健康スポーツマネジメント専攻に中一種免・高一種免（保健体育）、人間社会学科に中一種免（社会）の教職課程の開設を計画し、諸準備を進め、平成26年度開設に向けて申請中である。

## 社会福祉実習委員会

本年度の実習は、精神保健福祉士及び介護福祉士関連の実習指導や現場実習はほぼ例年通り円滑に行なうことができた。しかし、社会福祉士関連の現場実習については、受け入れ先の実習指導者の資格要件の不備があり急遽実習先の変更を行なったケースが2件みられた。現在、社会福祉士関連の実習では、実習指導（IとIIと事後指導）及び現場実習の全体を視野に入れたトータルな指導システムの構築、精神保健福祉士関連では学生の主体的な学びを支援するための指導法の工夫、介護福祉士関連では大学、学生、実習先、そして保護者（保護者への実習報告会の案内）などの多様な支援者による実習指導体制づくりに取り組んでいるところである。

## 入試・募集委員会

入試・募集委員会は、入学試験を適正かつ円滑に運営し、学生募集を円滑かつ効果的に推進することを目的としており、平成24年度は、学生募集の方法や、入試における選抜方法、学力試験の適切性について恒常的に検証することを年度目標に掲げた。学生募集の方法については、専門業者とのタイアップによる年間広報の導入や、入学者を対象に進路決定等に関するアンケートを実施し、その結果を広報活動等に活かした。その結果、オープンキャンパス参加者数、受験者、入学者数とも前年を上回ることができた。入試の適切性については入学後の学生の成績と入試区分の関連を検証したが、入試の種類による成績の偏りは見られず、選抜方法や学力試験は適性であると判断できる。今後は県外学生の確保を視野に入れた積極的な募集活動を行うための体制作りが課題である。

## 教務委員会

教務委員会は、教育課程の編成・実施を適切に行うことの目的としており、平成24年度は、シラバス及び成績評価・単位認定の適切性の検証、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証、を目標に掲げた。シラバスについては、記載内容に不備がないように授業担当者への周知に努めたが、ほとんどの科目で成績評価の方法・基準を明示することができており、適正な単位認定につながっていると考えている。教育課程の検証については、学科ごとにカリキュラム・ツリーを作成することによって、教育課程の適切性、順次性の検討を行ったが、まだ作業の途中であり、平成25年度中に全学科の教育課程の検証を終えることができるよう取り組んでいるところである。